



守るために、助けるために。 今日も前進!!香南消防

市民の命と財産を守るために火災予防、消火や人命救助、救急業務などを第一線でやっている香南市消防本部。現在、消防車2台、救助工作車1台、救急車3台を所有し47人の職員が業務に当たっています。特に近年、住宅構造の変化などにより、火災に対する技術と知識の改革や伝承は全国的にも重要課題。香南消防ではどのような取り組みをされているのか取材しました。

■担当/広報編集委員 久保きみ

住宅構造の変化

以前の住宅などで火災が発生するとあつという間に炎に包まれていきましたが、近年ではそれが変化してきました。それは住宅などの構造が高気密、高断熱化また、建築資材なども難燃・不燃材が多く使用されるようになったことによるもの。それにより消防隊が現場に到着した時の状況も変わってきたそうです。このことから火災防ぎよ戦術や活動にも見直しが必要となってきました。

技術と知識の伝承

また、市内での火災発生件数は年間約15件前後で、交代制勤務のため実際に出動するのは消防士1人当たり、年間数回しかありません。訓練でも燃えていない建物に水をかける事が大半で、職員の経験不足も課題のひとつ。そこで一昨年度、新たに「訓練企画担当」部署を作り4人の職員を配置。意見を出し合いながら、状況に合わせた訓練内容などを企画し技術と知識の伝承に努めています。

ファイヤーコントロールボックス

合板で作った高さ1メートルほどの木造家屋に見立てた模型「ファイヤーコントロールボックス」は職員の手作り。火災発生時の燃焼過程や拡大の状況、煙の色の変化、酸欠状態の部屋の様子などを実際に目で見て学びます。炎や煙、空気の流れ、温度変化を確認しながら、フラッシュオーバーやバックドラフトがなぜ起きるかを理解し、火災の危険性を再認識。こうした体験型訓練により経験を補い、火災の性状を理解しています。



上：4室の2階建て家屋の模型
下：隣接家屋がある場合を想定



先進的「洪消式」の普及

精神と戦術の改革を

「洪消」とは、群馬県渋川広域消防本部のことで、過去の火災対応で起こった課題や疑問などを契機に反省と改善に取り組みされました。そして全国から注目される「洪消式火災防ぎよ戦術」を開発。少人数の組織でも、いかに効率よく失敗しないように対応できるかを突き詰めていったそうです。それまで指示されるがままに従前どおりのやり方ただこなすだけだった業務を、自分たちで考え自発的に動き、全員が理解して取り組む精神面の改革。そうし



て生まれた戦術や装具などを学ぶために「洪消」の職員を講師に招き、勉強会を開催。常に自ら考え行動し「新化」してきた姿を学びました。それを機に香南消防でも「火災防ぎよ戦術検討会」を開き、さまざまな課題を明確にし、共有することで課題解決に向かっていくとのこと。そして香南市の地域特性や実状に応じた形で実際に運用するようになったそうです。

学びから応用へ

「洪消式」からの学びを今年度採用の新人隊員にも指導しています。

1「吸管伸長法」 消防車から直接消火栓へ迅速につなげ、タンクの水切れを起さない様にします。

2・3「ホース延長法」 渦巻状に巻いたホースを肩に担いで走るものとは別に「洪消」開発の「ホースバッグ」と呼ばれるものに、ホースを折りたたんで収納したバッグを担いで走ります。時短と、より長い延長ができます。写真のもので約40キロほどの重さになります。



持ち上げりも
しませて

収納もきちんと丁寧にたたみます。この地道さが迅速、確実な現場活動につながっています。

また「場読み」という出勤前の事前確認も重要なこと。大慌てで出勤して現場で手間取ることがないように、出勤前に地図等で消火栓、道路、地形、侵入路などの情報を全員で確認。到着からの活動がスムーズになること、ここで「急がば回れ」ですね。

このように先進的なお手本を元に、変化することに柔軟に対応し、常に「市民を守るために」前進する香南消防。南国消防、香美消防、自衛隊との合同訓練も予定されており有事の事態への訓練は今後も続きます。火災発生の多い季節になります。市民のみなさんも今一度「火の用心」を!



ロープレスキュー
近畿大会1位の隊員も!